

2023年10月26日 社長会見要旨

**【会見要旨】**

本日は「2023年度第2四半期決算」、「事業共創推進室の設置」、「森バイナリー発電所」、「泊発電所の審査状況」などについてお話しします。

**【2023年度第2四半期決算】**

はじめに、「2023年度第2四半期決算」について、お手元の資料1に沿ってご説明します。

2ページの上段「経営成績」の表をご覧ください。売上高につきましては、電気料金の見直しに加え、燃料価格や卸電力市場価格の変動に伴う燃料費等調整額の増加などにより、前年同期に比べ717億円増加の4,585億円となりました。経常利益につきましては、電気料金の見直しに加え、燃料費等調整制度の期ずれ影響が収支の好転に大きく寄与したことなどにより、前年同期の損失から713億円増加し703億円となりました。また、四半期純利益につきましては、経常利益の増加などにより、前年同期の損失から526億円増加し510億円となりました。

続いて2ページ下段「財政状態」の表をご覧ください。自己資本比率は前年度末に比べ、2.3ポイント改善し、14.0%となりました。

4ページには経常損益の変動要因を、5ページには燃料費等調整制度の期ずれ影響を掲載しています。この期ずれ影響について、5ページの図を使って補足いたします。前年の第2四半期は、青線でお示しの燃料調達価格が高騰し、赤線の燃料費等調整額の収入には、遅れて反映されるため、期ずれ影響が466億円の差損となりました。一方、当第2四半期は、年明け以降の燃料調達価格の低下により、345億円の差益となったため、前年同期との比較では811億円の利益好転要因となっています。

9ページから17ページには、連結決算の収支比較表や販売電力量、供給電力量の実績などをまとめていますので、あわせて後ほどご覧ください。

続けて、2023年度の連結業績見通しについてご説明します。6ページをご覧ください。

2023年度通期の連結業績につきましては、至近の動向を踏まえ、7月28日に公表した連結業績予想を修正しました。売上高につきましては、燃料価格などの変動による燃料費等調整額の増加や小売販売電力量の増加はありますが、他社販売収入が減少することなどから、7月の公表に比べ170億円減少の9,600億円程度となる見通しです。経常利益につきましては、燃料価格の上昇はありますが、卸電力市場価格の低下による収支の好転などから、7月の公表に比べ40億円増加の360億円程度となる見通しです。また、当期純利益につきましても、経常利益の増加などにより、7月の公表から40億円増加の310億円程度となる見通しです。

なお、上期の連結経常利益 703 億円に対し、通期では連結経常利益 360 億円程度まで低下する要因としましては、下期は、例年、修繕費などの費用計上が多いことから利益水準が低位であることに加え、上期に予定していた火力発電所の定期検査費用が設備不具合に伴い下期に繰延となることなどによるものです。

6 ページの表の中ほどをご覧ください。2023 年度通期の小売販売電力量につきましては、この夏の記録的な猛暑の影響などにより増加しますが、他の小売電気事業者さまへの販売電力量が減少する見通しであるため、7 月の公表から 6 億 kWh 減少の 336 億 kWh 程度となる見通しです。

18 ページには、2023 年度の連結業績予想における経常損益の前年度からの変動要因を、また、次の 19 ページにはご参考まで規制料金のモデル試算を記載していますが、お客さまの実質的な負担額は軽減されています。

8 ページをご覧ください。中間配当および期末配当予想についてご説明します。

今年度の中間配当につきましては、本日開催の取締役会において、9 月 22 日に公表した配当予想のとおり、普通株式は 1 株当たり 5 円、B 種優先株式は定款の定めに従い実施することを決定しました。また、期末配当予想については、9 月 22 日の公表内容から変更はなく、普通株式は 1 株当たり 5 円、B 種優先株式は定款の定めに従い実施することを予定しています。

2023 年度第 2 四半期決算についてのご説明は以上です。

### 【事業共創推進室の設置】

次に、お手元の参考資料 1 をご覧ください。「事業共創推進室」の設置についてご説明します。

北海道は、豊かなエネルギー資源に加え、日本の食を支える農林水産資源や、四季折々の自然など観光地としての魅力に恵まれるなど、大きなポテンシャルを有しています。その一方で、地域の過疎化や一次産業の担い手不足など、様々な社会課題が顕在化しています。

当社は、「北海道の持続的な発展こそがほくでんグループの事業基盤になる」との認識のもと、この北海道のポテンシャルを最大限活かしながら、エネルギー分野にとどまらず、様々な分野における社会課題の解決や地域の発展に一層貢献していくため、11 月 1 日付で「事業共創推進室」を設置します。今後、この組織を中心に、まずは、一次産業や観光、福祉といった分野から事業化していきます。お客さまや地域社会から、真に必要とされる企業となれるよう、当社の強みと他企業の技術やノウハウを掛け合わせることで、新たな領域における事業展開をこれまで以上に、迅速かつ積極的に進めてまいります。

これにより、ほくでんグループが道内各地に拠点を置かせていただいているご恩をお返ししていきたいと考えています。

### 【森バイナリー発電所】

次に、森バイナリー発電所についてご紹介します。お手元の参考資料 2 をご覧ください。

道南の森町において、JFE エンジニアリング様、東京センチュリー様と、3 社の共同事業として昨年 8 月から工事を進めてきた森バイナリー発電所は、現在試運転を行っており、11 月に営業運転を開始する予定です。

資料をお開きいただいた中面右側に記載のとおり、地熱発電の当社森発電所は、地下深くから取り出した蒸気と熱水を用いて発電しています。発電後に残った熱水の一部は、地元農家の皆さまが農業用ハウスでトマトなどを通年栽培できるよう、暖房用熱源として提供し、ご利用いただいておりますが、使用していない熱水は地中に戻していました。森バイナリー発電所は、約 36 度と沸点の低い媒体を沸騰させ、その蒸気でタービンを回して発電します。これにより、これまでは温度が低く、従来の地熱発電では使用できずに地中に戻していた熱水のエネルギーを有効活用することが可能となります。

地熱発電は、安定した発電ができる、純国産の再生可能エネルギーであり、現在、京極北部において、調査井戸を掘削して、蒸気や熱水などの有無を探る調査を実施しています。地熱以外の再生可能エネルギーについても、風力発電や太陽光発電など、幅広く道内各地で事業化に向けた調査・検討を進めています。

森バイナリー発電所について、営業運転を開始した際にはあらためてお知らせします。報道機関の皆さまには、ぜひ発電所をご視察いただきたいと考えていますので、準備が整い次第、ご案内します。

### 【泊発電所の審査状況】

次に、泊発電所の審査状況についてお話しします。

当社は、津波、火山などの残る審査項目について、原子力規制委員会・規制庁と双方で認識を確認しながら、精力的に対応を進めています。

10 月 20 日の審査会合では、地震による津波と地震以外の要因に伴う津波の組み合わせ評価において、原子力規制委員会から水位上昇側の波源の選定について、「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただきました。基準津波策定に向け、水位下降側の評価結果についても早期に説明していきます。津波の最大水位上昇量が高くなることから、安全性をより一層高める観点で新たに設置の検討を進めている防潮堤の高さについては、海拔 16.5 メートルから 19 メートルに変更することとしています。引き続き、皆さまにご安心いただけるよう、防潮堤の設計について検討を深めていきます。

また、来週 30 日、31 日には、原子力規制委員会による火山に関する現地調査が予定されています。当日は、火砕流堆積物などの発電所周辺における分布などについて、審査会合で当社がこれまで説明してきた観察結果やデータの妥当性を、直接、現地の地層やボーリングコアなどでご確認いただきます。

引き続き、安全確保を大前提に、泊発電所の早期再稼働に向けて総力を挙げて取り組んでいきます。

### 【ほくでんガス3周年記念キャンペーン】

最後に、お手元の参考資料 3 をご覧ください。今月で、都市ガス販売開始から 3 周年を迎えました。当社は、お客さまの多様なニーズにお応えするため、最適なエネルギー利用の実現に向けたお手伝いをさせていただいています。

現在、この 3 周年を記念して、これまでの感謝の気持ちを込めて、引き続き、より多くのお客さまに当社の充実した料金プランやガス機器関連サービスをご利用いただけるよう、12 月 27 日までお得なキャンペーンを実施中です。期間内に「ほくでんガス」をご契約いただくと、都市ガスの基本料金が 3 カ月間無料になるほか、抽選で豪華賞品が合計 333 名さまに当たるダブルチャンスもご用意しています。この機会にぜひ、「ほくでんガス」にお申し込みください。また、お知り合いの方で、まだ「ほくでんガス」をお使いでない方がいらっしゃいましたら、ぜひお勧めいただければと思います。

また、当社は、真冬の北海道でもメインの暖房として利用できる寒冷地向けエアコンの普及拡大に向けて、北海道とタイアップした「エアコンキャンペーン」を 12 月 31 日まで実施中です。ヒートポンプ機器は、大気熱などの再生可能エネルギー源を有効活用するもので、電気の使用量を大幅に削減できるメリットがあります。ぜひこの機会にご検討いただければと思います。

私からは以上です。